

議 事 録

用 件	令和7年度 第1回 富士見町地域公共交通会議
月 日	令和8年2月19日 13:30~15:00
場 所	町民センター2階大会議室
概 要	<p>進行：小池産業課長</p> <p>・開会宣言 出席者数 23/30人(1名代理) 傍聴者数2名 実施要綱第5条第2項の規定により、過半数の出席となり、本会議成立。</p> <p>1、開会</p> <p>2、あいさつ 渡辺町長 住民の声を直接聞く中で、公共交通に関する声が一番多かった。高齢者だけでなく、子どもを持つ親世代などからの関心も非常に高い。対話の会や、女性や若い世代をメンバーに加えた分科会を開催し、住民の声をしっかりと聞いていく取り組みを進め、今後の方向性を考えてきた。町として目指している方向性は、多世代が移動しやすく、近隣の自治体とも連携し、エリアとして暮らしやすいまちづくりである。出席者の皆様には会議だけにとどまらず、今後の協働という面でも力を貸していただきたい。</p> <p>3、会長及び副会長選出 会長：伊藤副町長 副会長：西村商工会長</p> <p>4、議事 (事務局)</p> <p>① 今後の富士見町の公共交通の方向性について(資料①・議題1により説明)</p> <ul style="list-style-type: none">・R6 コミュニティバス実証運行について・R7 広原便、夜便実証運行について・「みんなでつくる！富士見交通対話の場」について・今後の公共交通の方向性について <p>⇒ <u>「のらざあ」の実証運行、朝夕のスクールバスの実証運行を実施していきたい</u></p> <p>(会長) ご意見ご質問等あればお願いします。</p> <p>(委員) のらざあの広域連携とは具体的にどのような形態か。 ⇒ (事務局) 運行エリアは各自自治体、システムは共通のものを使う、というところから始めたい。</p> <p>(委員) 料金体系はどうか、広域連携は乗り継ぐのか、現時点で考えがあれば。 ⇒ (事務局) 将来的な広域連携を見据えると茅野・原と同じ体系であった方が利用者目線でもわかりやすいと考えている。料金を含め、具体的な運行内容は来年度の実証運行までに検討していく。</p> <p>(委員) 要望になるが、すずらん号の利用者の多くが高齢者ということから、電話予約の手段は残してほしい。 ⇒ (事務局) 電話予約も含め、すずらん号の利用者が無理なく移行できるように、あわせて新しい利用者が獲得できるようにプロモーション等していきたい。</p> <p>(委員) 具体的にどこがどう変わるのかわかりづらい。 ⇒ (事務局) この会議ではまず方向性をお示しした。具体的な内容はこれから検討し、来年度の会議等のなかでお示していく。</p>

(会長) 今後の方向性についてお認めいただける方は挙手をしてください。

【挙手】

⇒①について、承認。

(原村)

- ② 令和8年度 原村「のらざあ」実証運行について(資料①・議題2、資料②により説明)
- ・利便性向上のために、村外の特定地点を増やす取り組みがあり、その地点の最適化を図るためにらざあの実証運行を富士見エリアで実施する。
 - ・町民も利用ができ、得られたデータも共有できるため、これから実証運行を実施する富士見町にとっても双方にメリットがある。

(会長) ご意見ご質問等あればお願いします。

(委員) 富士見、原それぞれの実証運行の期間など内容は重複するものか。

⇒(原村) 原村の実証運行はR8.6~10、富士見町はR8.10~なので、予定ではあるが重複する期間があると思われる。

⇒(事務局) それぞれ別々の事業として行うが、先行して原村で実証運行を実施していただくことで、うまく連携しながら富士見町の実証運行にもつなげていきたい。

(委員) すずらん号の料金は340円、のらざあは300円~で高齢者の割引もあるので運賃収入減となる懸念がある。料金を検討するにあたり、原村でのデータをぜひオープンにしていきたい。

⇒(原村) 距離が短いと料金が安くなるということよりも、距離が長くても料金が同じということの方が効率の面では悪くなる。また、同じのらざあでも自治体ごとに料金が異なることは利用者にとってはネガティブな要素にもなる。いずれにしても、データや知見等は共有していく。

(委員) 要望として、すずらん号の運行を担っている地元事業者やオペレーター、車両等活用していただきたい。

⇒(事務局) 前向きに検討したい。

(委員) 富士見町ののらざあが是非成功してほしい。のらざあの利用が伸びているが、どのようにプロモーションを行ってきたか。

⇒(原村) 各集落の公民館などを訪問してその場で登録をお手伝いしたり、必要な情報を提出してもらえば役場で代わりに登録してあげる、といった取り組みを行った。最初の入口の敷居をなるべく低くしてあげることがまずは必要だと思う。

(会長) 原村の実証運行についてお認めいただける方は挙手をしてください。

【挙手】

⇒②について、承認。

5、その他(事務局)

- ・具体的な実証運行内容については今後の会議等で検討していくので引き続きご協力をお願いしたい。

6、閉会